

はじめに



21世紀は「環境の世紀」です。

20世紀後半から問題化した地球規模での緑の環境破壊は、将来の人類の存亡を左右するほど加速度的に深刻化しています。これは、豊かさを求めた生活や経済活動が緑の環境に大きな負荷を与え続けた結果です。

今、私達がすべきことは、「環境破壊の世紀から環境創造の世紀への転換」を人類共通の目標と受け止め、環境への配慮に最優先で取り組むことです。

本市では、環境への負荷の少ない持続可能な社会の実現に向け、地方自治体として積極的に貢献することを使命に、進むべき方向を「環境先進都市」と位置付けました。

その第一歩として、環境への配慮を実践する国際標準規格 ISO14001 の認証を、2000年7月に行政自らが率先して取得するとともに、環境の保全及び創造への理念を定めた三島市環境基本条例を制定。2002年3月に策定の三島市環境基本計画では、環境施策の着実な推進と、市民・事業者の自発的な環境活動への誘導を図りました。

このたび策定しました「三島市緑の基本計画」は、本市の緑の将来像を示す計画で、「緑と水が織りなす環境先進都市・三島」～人が育む緑と水 自然が育む豊かな心～をキャッチフレーズとして、様々な機能を有する「貴重なふるさとの緑」を市民、ボランティア団体、事業者、市が協働し「守り」「つくり」「活かす」活動を推進し、環境先進都市を築き上げることによって、郷土の良好な緑の環境やかけがえのない地球環境を、次世代に引き継いでいくことを目指すものです。

また、本計画では、緑の将来構造となる主軸を「緑と水のクラスター軸」「緑と道のクラスター軸」と定め、緑のネットワーク化を図り街の回遊性を高めることにより、貴重なふるさとの緑や水辺環境を活かした、賑わいあふれる元気な街づくりを進めます。

21世紀は、緑の重要性を考え行動する人材の育成がキーワードと考えます。なぜなら、人の活動によって生じた緑の喪失など地球環境問題の解決は、自然の治癒力のみには任せるのではなく、人が努力してこそ成し得るものであり、緑づくりの主役も「人」でなければならないと思うからです。

結びに、本計画の策定に当たり熱心にご審議いただきました「三島市緑の基本計画策定委員会」の委員の方々、原案づくりに参画していただきました「中学生ワークショップ参加者」「市民ワークショップ参加者」の皆様、多くの貴重なご意見をお寄せいただきました市民の皆様にご感謝申し上げますとともに、緑化行政の推進に、皆様方のなお一層のご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

2003年3月

三島市長

小池政臣